ご　あ　い　さ　つ

校長　山　根　　拓

本校ではこれまで研究主題「主体性の高まりをめざす課題学習」を掲げ、課題を解決するための思考力や主体的に学び続ける態度の育成を求めて、研究・実践に取り組んできました。

平成 27 年度から令和元年度までは「教科の本質に迫る授業づくり」を副題とし、（１）「教科の本質を踏まえて『身につけるべき資質・能力』を明確にした授業づくり」、（２）「実践を見据えながら、学びを活用・発揮・実感させる授業づくり」、（３）「『問い』により思考・判断・表現を促す授業づくり」の３つの視点を設定し、それに基づき「教科の本質（１年次）」、「付けたい資質・能力（２年次）」、「『学習課題』と『問い』（３年次）」、「学びの活用・発揮・実施（４年次）」に重点的に取り組み、最終年次は３つの視点を有機的に関連付けました。その成果として教師が「身に付けさせたい資質・能力」を明確にした上で教科固有の「見方・考え方」を働かせる「問い」を工夫すれば、生徒の学びが深まるという認識を得ました。

５年間の試みを通じ、生徒が「深い学び」に達するための鍵となる「見方・考え方」とは何か、また教科固有の「見方・考え方」を働かせるためにどのような「問い」を設定すればよいのか、「深い学び」の実現とはいかなる状態なのかという、次の課題が浮上しました。

それを承けて、令和２年度からの新しい研究副題は「『見方・考え方』を働かせ、『深い学び』を実現する授業づくり」となりました。初年次の令和２年度には、（１）「深い学び」を実現する単元構成、（２）そのために必要な「見方」と「考え方」の明確化、（３）「見方・考え方」を働かせる「問い」という３つの視点を設定しました。令和３年度（２年次）には、そのうちの「深い学び」を実現する単元構成、「見方・考え方」を働かせる「問い」に重点的に取り組み、各教科で学習活動を分析・整理し、従来の授業実践を捉え直しながら、副題に迫る単元や題材を構想しました。令和４年度（３年次）には、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方に関する研究に取り組みました。令和５年度（４年次）には、引き続き「深い学び」を実現する単元構成と「見方・考え方」を働かせる「問い」の２つの視点を重視し、「指導と評価の一体化」を目指して研究を進めてまいりました。

この研究紀要第 78 号（当該号）では、最終年次である令和６年度（５年次）の研究成果をまとめております。特に生徒たちが深い学びを得たかどうかを確認し評価するためのルーブリックの活用法や、教科の「見方・考え方」を働かせる「問い」の在り方が追究されました。コロナ禍の時期に始まった当該研究副題研究は今年度をもって終了いたしました。５年間を通じた具体的な研究成果と課題については本紀要の中で示されておりますので、本編をご覧ください。そのうえで皆様の忌憚のないご意見をいただきたく存じます。

最後になりましたが、日頃よりご指導を賜っております文部科学省、富山県教育委員会、富山県中学校教育研究会をはじめとする関係機関の皆様、本校教職員の先輩各位におかれましては、本校を代表して厚く御礼申し上げます。今後とも、本校の実践研究活動の進展のために、温かい御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。